



## 大学基準に適合と認定

学長 西野 武志

京都薬科大学は、1997年に「大学基準協会」による「相互評価」の制度が発足したのを機に、自己点検評価を行い、1999年3月に大学基準協会から「大学基準」に適合する認定大学であるとの評価を得た。認定後8年を迎えたので、今回新たに「大学基準協会による相互評価」を受けるべく、2007年4月に自己点検・評価運営委員会を設置し、約1年間をかけ本学の教育・研究活動を自己点検・評価\*いたしました。そして作成した自己点検・評価報告書を基に文部科学大臣が認証した評価機関である財団法人大学基準協会に大学評価を申請し、2008年4月から約1年間の書類審査、実地視察等の審査を経て、2009年3月に大学基準適合の認定を受けました。認定期間は2009年4月から2016年3月までの7年間になります。

総評においては、本学の医療人としてのヒューマニズム育成を重視したカリキュラム編成や、活発な研究活動が特に高く評価されています。

本学では今回の評価結果を真摯に受け止め、高い評価を受けた項目についてはより一層の向上に努めるとともに、助言をいただいた項目については早急に改善策を立案していく所存です。関係者の皆さま

には、今後とも本学の教育・研究の更なる充実のため、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

\* 自己点検・評価報告書は本学HPで閲覧可能です。



## CONTENTS

大学基準に適合と認定 学長 西野 武志	2010年度大学院薬科学専攻
就任のご挨拶	博士前期課程入学選考の概要
昇任のご挨拶	平成20年度決算について
新任のご挨拶	米国におけるFD活動の視察報告
特集 躬行館現場報告	平成21年度科学研究費補助金採択状況
第94回薬剤師国家試験の結果と平成21年度の対策	Library News
卒業生からのメッセージ	受賞・掲載
2008年度授業評価集計結果の報告	The 3rd Collaboration Meeting on GI Pharmacology
2009年度試験関係日程	お知らせ
2010年度学部入学試験概要	京薬会だより
	京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

## 就任のご挨拶



### 研究科長

竹内 孝治

5月より、研究科長として2期目を担当させて頂くことになりました。本学も、4年制薬学の最後の卒業生を3月に送り出し、今後は6年制学部のみを有する薬科大学として、教育・研究に新たな軌跡を残して行かなければなりません。研究科としても、6年制学部に基礎を置く4年制大学院の設立準備が本格化し、平成24年春の始動に向けて万全の体制で臨みます。学長の御指導を仰ぎながら、職務の遂行に精一杯取り組む所存ですので、これまでの2年間と同様、今後とも皆様方の御支援と御協力を宜しくお願い申し上げます。

この機会に、研究科における最近の特筆すべき事柄について記したいと思います。まず、本年4月より「臨床腫瘍学分野」が病態薬科学系に新たに発足し、癌に関する教育・研究が始まりました。最近、国家試験にも癌、抗癌剤に関する設問が多く見受けられますが、これまで本学では、癌領域における本格的な講義が為されていなかっただけに、新分野の開設は歓迎すべきことです。それから、研究科における最大の使命とも言うべき研究面では、様々な高い水準の成果がこれまでに得られていることは御存知の通りです。本年3月に終了した21世紀COEでは、木曾先生を中心に先生方の御努力により、最高の評価を受けています。残念ながら、それに続くグローバルCOEやオープンリサーチ整備事業を引き継ぐ基盤形成事業については様々な要因により苦杯を嘗めましたが、今後、他のプロジェクトに向け再挑戦の準備を進めます。これまでと同様に高水準の研究活動を維持するためには、外部資金の獲得は必須であり、先生方にも一層の奮起をお願いしたいと思います。

次に今後の大学院ですが、様々な点で変更があります。現行の2専攻を有する大学院（2+3年）は4月に107名の入学者を迎えたが、来年からは「臨床薬学専攻」を募集停止し、「薬学専攻」から名称変更した「薬科学専攻」のみとなります。学内に基礎となる4年制学部がないため、定員も82名から8名になり、従来の定員の1/10にまで減少します。勿論、平成24年には6年制学部の上に4年制大学院（薬学専攻）が発足しますが、現行の大学院との棲み分けなど、難問が山積しております。最近、文部科学省は薬学系大学院のあり方に関する報告をまとめてお

り、「6年制の上の大学院では“臨床薬学を中心とした高度・専門的な研究能力を持つ薬剤師の養成”、4年制の上の大学院では“創薬科学を中心とした薬学領域における研究者の養成”に重点を置くもの」としています。本学はこれらの大学院を併設するため、両大学院における教育の違いを明確にするためのアドミッションポリシーを策定する必要があり、この点は来年の4年制大学院の設置申請に向けての最重要課題と思われれます。その他、京都府立医科大学、京都府立大学、および京都工芸繊維大学との連携による共同大学院の設置も考えられています。何れにしても、今後の大学院の活性化のためには、薬学部出身者だけでなく、他学部、さらには国外にも志願者を積極的に募り、入学者の経歴の多様化と共に国際化も目指さなければなりません。

薬学6年制になって以来、薬剤師養成を目的とした教育カリキュラムの充実には目を見張るものがありますが、逆に薬学全体の研究力の衰退が懸念されています。6年制薬学を修了した人も、出来るだけ大学院へ進学することにより、薬学教育者、創薬科学者、および研究能力を備えた医療人として育てて貰いたいと思います。



### 教務部長

後藤 直正

電車で通うときに話の内容が聴こえてくることがあります。先日、参考書を広げた2人の高校生が、「こんなんやって何の役に立つのかわからん。けど、入試には必要やからやらんとしゃないわ」ということを話していました。それを聞きながら「そうやったなあ。彼らと同じ頃、さらには大学生のときも、私も同じようなことを言っていたなあ」と懐古の想いとらわれました。この高校生の話の中の「何の役に立つのかわからん」ということを真剣に考えることは大事なことでないでしょうか？皆さんは薬学を修めるにあたって必要なことを毎日授業の中で学ばれています。興味を持ってない科目もあるでしょう。このような科目に接したときに、先の高校生のような言葉がつつい出てくることがないでしょうか？このときに、「こんなんやって何の役に立つのかわからんけど、やらんと単位とれへんから」というような言葉が出てくるかもしれません。「単位のために」、「決まっているから」ということではなく、「自分の目的に役立つのか」ということを考えて欲しいと思います。当然、考えても答えは出てくるとは限りません。そのときこそ、担当の教員に、先輩に、友達に、疑問を投げかけてみて下

さい。そうして考えることが科目の目的を理解し、うまく目的が見つかったときには、科目に対する興味が湧いてくるということにもなると思います。

環境と自己は別のものではなく、環境から受ける影響は大きく、また自己の動きによって環境を変えることもできます。大学生活という長い期間勉強できる機会を得たのですから「そんな難しい理屈なんてえ、なんでもええねん。必死に覚えて単位取ったら勝ちやねん」というような寂しいことは言わず、「こんなんやって何の役に立つの?」と「悩む(考える)」ことこそ成長を促すものと思います。

最後に教職員の皆様にお願いを申し上げます。6年制の完成を前にして、カリキュラムの再検討のご意見をよく耳にしておりますし、躬行プランの推進で学長からも改訂の準備を始めるようにという重い命題を戴いております。自分の守備範囲しか意識してこなかった身を改めるべく、シラバスに何度か接してきましたところ、恥ずかしながら、「こんなあるんや」、「こんなことやってるんや」ということによりやく気付きました。こんな身で学長からの重責を果たせるわけはありません。そこで、皆様の多大なご助力をバックにカリキュラムの改訂準備を遂行致したく思っております。なにとぞ、ご援助いただけますようお願いいたします。



## 学生部長

浜崎 博

この度、引き続き2年間、学生部長を務めることになりました。

この2年間で実に多くの経験をさせていただき、現在の複雑多岐にわたる社会における大学の課題というものを感じることができました。これまで接してきた多くの事案において、不可抗力的な件もありますが、多くは、ささいなルールを「遵守」しなかったことにより起こっております。

「赤信号、みんなでわたれば怖くない」、このブラックユーモア的な標語はよく耳にします。

2年前、本学4年次生が交通事故により亡くなりました。このような事故を二度と起こさないように、特に交通ルールを守ることを徹底しました。正門前の横断禁止、ホンダ前の陸橋を渡ることなどです。これは本来守られるべきことでありますが、漫然とみんなが渡るから・・・ということでルールが無視されてきた結果でもありました。

昨年、研究会で某国立大学を訪問しました。通学路は「自転車は降りて通行してください」の大きな

看板があるにもかかわらず、ほぼ全員乗ったままの通行でした。時間的に通学学生が少なかったこともあるでしょうが、将来日本を背負っていく人材が・・・と大変残念に思いました。本学に振り返ってみましょう。

現在、躬行館工事のため本校地内の一部で「自転車は降りてください」、というお願いをしております。狭い通路を乗ったまま通行する学生の何と多いことか！救いは、注意されなくても、ごく自然に降りて通行する学生もいるということです。このような学生が一人でも増えていくことを期待するばかりです。

「みんなが乗っているから」、「誰もいないから」、「急いでいるから」・・・いろんな理由はあるでしょう。しかし、ルールは守りましょう。

みなさんは「人の命」に関わる職業に携わります。どんなルールも無視してはいけません。普段からルールを守る意志を持つこと、これは薬剤師としての最も大切で基本的な素養です。

薬剤師になるための知識を深め、技能を高めることはもちろん、「人」として成長されることを切に願っております。



## 進路支援部長

山本 昌

本年5月より後藤直正先生の後任として進路支援部長を担当することになりました。随分前に一度進路支援部の委員を担当して以来、進路支援課とはほとんど関わっておりませんでしたので、不慣れな点があると思いますが、何卒宜しく願い申し上げます。

さて、学生諸君にとって大学に進学する大きな目標の一つは、おそらく将来の進路や就職先を決めることではないでしょうか？本学では毎年、学生諸君が、製薬企業、病院、薬局、公務員などの様々な職種に就職していますが、その際に学生の進路や就職に関してサポートするのが進路支援課の役割です。そのため、本学の進路支援課では、進路支援課の職員の方々が中心となって、各分野主任の先生とも緊密な連絡を取りながら、就職や進路に関する活動を支援しております。具体的には、個人面談（ヒアリング）、求人情報の提供、能力・適性検査（SPI テスト）の実施、インターンシップの実施、学内合同セミナーの開催、窓口での個別相談などです。このように、進路支援課には皆さんの就職や進路決定に役立つ多くのサポートシステムがありますので、是非、積極的に進路支援課に足を運んで頂き、希望す

る就職先の情報収集をしたり、あるいは進路で迷っている時には進路支援課の職員の方々に相談して頂きたいと思います。以前、なかなか進路が決まらなかった学生が頻繁に進路支援課に相談していたところ、ある時に思いがけなく企業の追加募集があって内定を勝ち取った例もあると聞いておりますので、是非、皆さんも積極的に進路支援課を活用して頂ければと思います。今後、6年制の学生諸君が就職活動を行う場合、現在までの4年制学生と異なる職種に進路を決めたり、あるいは採用試験の内容や時期なども変わってくる可能性があります。こうした点についても進路支援課ではなるべくこれから情報を収集したいと思っております。

最後に就職試験に関して、私からのアドバイスを一つ紹介したいと思います。それは、採用担当者（面接官）の方に、「この人と是非、一緒に仕事がしたい」と思わせることです。最近、学生の就職試験の際に筆記テストの成績よりも面接の結果を重視して人物本位で採用を決める製薬企業や病院などが増えていると聞いております。学生諸君は、書店に溢れている色々なマニュアル本を読むだけではなく、是非、学生時代に採用担当者が惚れ込むような優れた人格、態度などを身につけて就職試験に臨んで頂きたいと思います。

## 昇任のご挨拶



生命薬科学系  
分子生体制御分野

教授 大和田 幸嗣

本年4月1日付けで教授に昇任させていただきました。私は、1974年（昭和49年）大阪大学大学院理学研究科（生理学専攻）博士課程を修了（理学博士）後、大阪大学微生物病研究所腫瘍ウイルス学部門の助手としてトリレトロウイルスの発癌機構の研究に1988年まで従事しました。その間、1978年から4年間、ドイツ西ベルリンのMax-Planck 分子遺伝学研究所のDr. K. Moellingの研究室でSrc癌蛋白質とその標的蛋白質の研究を行いました。そして1989年にご縁あって本学に設立された生命薬学研究所の分子生体制御研究部門の助教授として着任しました。以来、原癌蛋白質c-Srcの細胞増殖や分化における役割とそのシグナル伝達機構の最終場-細胞の運命決定場-である核における情報処理機構についての研究を行ってきました。一方、研究室では4年次生の卒業実習、大学院生の指導、また3年次生の分子生物学の講義、大学院の特論等の教育にも携わってまいりました。これらの講義では、20世紀後半の分子生物学に

おける技術革新とそれがもたらした生命科学における成果とインパクトに加えて、それに至る道筋とその意味するところを伝えることにより、学生諸君の知的興味を刺激することに努めてまいりました。

近年生命科学の分野では私が大学院で学び始めた頃には想像すら出来なかったことが次々と明らかになってきました。例えば、ヒトゲノムに死がプログラムされていること、また目的の遺伝子の働きを解明する為に、個体や細胞レベルでその発現を抑制できるようになったこと、そして細胞は終末分化しても適切な条件（細胞の再プログラム化、初期化）により発生初期の多能性細胞へ戻れる柔軟性を保持しているしたたかな存在であること、等々。これらの成果は、ひとえに未知なるものへの絶えざる問いかけとその答えを見つける為に払われた無私なる情熱と努力の賜物だと思われま。

本学で薬学を学ばれている皆さんは、6年間で沢山の専門知識や技能を身につけなければなりません。そしてこの6年間はまた、10年後、20年後の予測不可能な状況下でもやっていけるよう、自らの基礎を築き上げる為の貴重な年月でもあります。何事も根本からきちんとよく考える習慣を身につけること、学問の歴史、人類の歴史に謙虚に学ぶこと、それらは不確実な未来を生きる為の大きな力となると思います。本学での学生生活が皆さんにとって実り豊かなものになりますよう、微力ながら力を尽くす所存でございます。どうか宜しくお願い致します。



薬学教育系  
教育研究総合センター  
臨床薬学教育研究センター  
教授 橋詰 勉

本年4月1日付けで教授に昇任させていただきました。私は、本学大学院修了後、生化学II教室（現 病態生化学分野）の助手として、同教室での教育・研究に11年間従事いたしました。この間、幸いにも藤井達三先生（現 名誉教授）や佐藤隆司先生（現 名誉教授）の厳しくも温かいご指導を賜り、本学教員としての心構えを勉強させていただきました。結果を求める努力と、結果に素直に接する態度を教えていただき、今日でも私の礎となっています。その後、滋賀医科大学医学部附属病院での研修を経て本センターに異動後は、医薬品情報学（本年より臨床情報学）の講義および病院薬学実習を担当するとともに、実務実習担当教員としての業務に携わってまいりました。この間、選択科目であった学外での病院実習の必修化、4週間への期間延長、薬局実習の必修化、そして薬学教育6年制の開始と次々に改革が行われてきました。本年からは、6年制下での重要な力

リキュラムのひとつである実務実習事前学習が開始されました。

また、来年度からの病院および薬局での各11週間の実務実習の運営を担う立場にあり、実習施設の確保のみならず、いかに効果的な実習を実施するかが命題であると責任を痛感しています。長期実務実習の準備にご尽力された金澤治男教授が本年3月で定年退職されましたが、実習実施までには、まだまだ多くの課題を克服せねばならず、センター長の高山 明教授はじめセンター全教員が懸命に努力しております。幸い来年度の実習施設確保のめどはついてまいりましたので、今後は、実習内容や指導方針の詳細を各施設と打ち合わせていくこととなります。毎年、360名の学生の方が対象となり、書類上は私にとって1人の学生の方は360分の1に相当しますが、直接接していると、その数字は消え去ってしまいます。すなわち、学生自身にとっては、それぞれの実習が「1分の1」であることを肝に銘じ準備を進めたいと考えています。学生諸君が、本学で、あるいは実習施設で存分に勉強され、薬剤師として医療に貢献されることを期待しています。

なにぶん微力の身ではありますが、学生諸君の目標のお手伝いができるように努めてまいりたいと思います。今後とも、ご指導ならびにご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



薬学教育系  
教育研究総合センター  
学生実習支援センター  
准教授 大槻 雅子

本年4月1日付けで准教授に昇任させていただきました。私は1969年に京都薬科大学薬学科を卒業後、本学微生物学教室（現 微生物・感染制御学分野）の助手として採用いただき、2005年5月まで、故中澤昭三教授、谷野輝雄教授、西野武志教授（現 学長）、後藤直正教授のもと、研究や大学院生、学部生の卒業論文実験の指導、学生実習の指導に携わる機会を得ました。微生物学教室では、新規抗菌薬の開発に関する研究や淋菌の薬剤耐性機構に関する研究などを行ってきました。その後、学長企画室に異動となり、昨年4月からは学生実習支援センター（学長付兼務）に所属し、学生実習の支援を担当しております。

学生実習支援センターはその名の通り学生実習を円滑に行うための支援部署です。本格的な支援活動は2011年からで、現在は支援のあり方を検討している段階です。本学では、医療に関する幅広い専門知識・豊かな教養と人間性、高い倫理観を兼備した薬

剤師を養成し、さらに高度な薬学の専門知識を生かした人材の育成を教育目的としています。2、3年次の学生実習では薬学の専門教育の実践、3年次後期からの総合薬学研究ではさらに深い専門教育を受けることとなります。この2、3年次の学生実習は講義の延長線上にあり、講義では理解し得ないことを実践して学ぶことができる場です。学生の皆さん方には、まず、学生実習を通して自分が興味を持った研究領域を見出していただきたいと思います。そして、卒業までに興味を持った領域についてさらに深い知識を得て、卒業後には専門性を持った薬剤師や研究者として力を発揮していただきたいと思いません。学生実習では皆さん方に実験への興味を持っていただけるよう努めたいと思っています。今後とも宜しくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



生命薬科学系  
生化学分野  
准教授 山岸 伸行

本年4月1日付けで生化学分野の准教授に昇任させていただきました。私は本学大学院修士課程を故 三井宏美教授の御指導のもと平成5年3月に修了後、平成9年3月京都大学大学院医学研究科博士課程（武部啓教授）を修了し、学位を取得しました。その後、平成9年4月より本学生命薬科学系生化学分野（当時生化学教室）に助手および講師として主に生化学の講義および実習に携わってまいりました。

私が本学に着任以来12年が経ちましたが、最近の薬学教育を取り巻く環境は薬学6年制教育の進行とともに大きく様変わりしました。これらに対応するために本学でも愛学館や臨床薬学教育研究センター、現在建設中の躬行館などハード面での整備は急ピッチで進められておりますが、さらに大事なものはソフト面にあると思います。過去の歴史を見ても大変革の時代は、最大のピンチであると同時にその後の発展のための最大のチャンスでもあり、従来のシステムを踏襲するだけではなく新たな一歩を踏み出さなければなりません。本学ではすでに2007年度から5年単位の中期計画が実行され、今年度は学生の満足度調査なども実施されています。これらをもとに、本学はよりよい方向へと変化していくことでしょう。私自身も本学の発展に微力ながらも貢献できるよう努力していきたいと思っています。最近、「今日は残された私の人生の最初の日だ。これからの人生をより良いものにしたかったら、今日を素晴らしい一日にしよう。なぜなら、今日は残りの人生

の記念すべきスタートの日なのだから」という文章を目にし、感銘を受けました。これまでに培ってきた知識や経験だけに頼ることなく、毎日毎日がスタートだという気持ちをもって日々改善しつつ薬学教育および研究に邁進していく所存です。まだまだ若輩者ではありますが、今後とも、皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 新任のご挨拶



病態薬科学系  
臨床腫瘍学分野  
教授 吉貴 達寛

4月1日付で新設された臨床腫瘍学分野に着任いたしました。私は1981年に京都大学医学部を卒業し、泌尿器科医として過ごしてまいりました。大学で1年間の研修医を終えた赴任地は人口数万人の静岡県島田市で、地方の基幹病院であるため小児から高齢者まで非常に幅広い年齢の患者相手に、ごく普通の臨床医として4年間勤務いたしました。その後、大学院へ進み、教授室で「研究テーマは前立腺」という一言だけ頂戴し、幸か不幸か後は自分で考えて行動する4年間になりました。唯一の具体的テーマは、前立腺癌の腫瘍マーカーである前立腺特異抗原(PSA)測定系を日本で最初に開発するという、企業の下請けのような仕事でした。その結果、同一検体の測定値が複数の測定キットで異なる、という呆れるような事実に世界で最初に気付きながら、臨床的重大性を十分に認識できていなかったのが非常に恥ずかしい思い出です。もちろん現在では各キット間で測定値が異なるよう工夫されています。大学院の次は1990年に滋賀医科大学に採用していただき、途中2年間のブリティッシュ・コロンビア大学アンドロロジー研究室(精子特異抗原の遺伝子クローニング)留学を含めて、この3月末まで予想外に長い在職となりました。当初は良い研究テーマを見つけられず右往左往していましたが、大学がプロテオミクス(全蛋白質の網羅的解析)に必須である質量分析装置を購入した時期と、極めて優秀な大学院生を確保したことが重なり、研究が大きく進展いたしました。この研究で同定した膀胱癌の新規腫瘍マーカーの臨床応用と、過剰発現により細胞に不死化傾向を付与する蛋白質を標的にした抗癌剤の開発が今後の目標です。経歴からお分かりのように、私には薬学部での教育経験がありませんが、十数年に及ぶ病院実習の経験を元に、皆様からご指導を受けながら学生と共に成長していけることを楽しみにしてお

ります。この度は思いもかけず、そのような機会を与えてくださったことに対して、心から感謝しております。どうぞよろしくようお願い申し上げます。



薬学教育系  
教育研究総合センター  
臨床薬学教育研究センター  
教授 矢野 義孝

このたび、本学臨床薬学教育研究センター教授を拝命し4月1日に着任いたしました。私は昭和60年に京都大学薬学部を卒業し、続いて大学院博士課程を修了した後16年間製薬企業に研究員として勤務しておりました。その後、平成18年5月に京都大学薬学研究科で准教授として約3年間、6年制薬学教育システムの構築などに携わりました。高校時代は漠然と医療に関わる仕事に就きたいと思って薬学部を志望していましたが、暗記モノの勉強が他の友人たちと比べて優れているとはいえない状況でした。一方で当時お世話になった数学の先生の大変論理的で明快な授業に関心を持ち、将来は数学にも関わっていたいとも思っていました。大学に入学し、たくさんのことを覚えなければならない科目に悪戦苦闘しながらも4年生となり、所属した研究室では薬物動態と統計理論とを理論的に関連づけるといった研究をされている先生にお世話になることができました。当時は基本的に放任主義で、しかし雑談の中でいつもデータ解析の楽しさを伝えて下さったこの先生に少しでも追いつこうと数学や統計の本を読みあさりしました。その後、企業においても臨床試験のデータ解析を行う部署にお世話になり、薬学部では敬遠されがちな数学・統計学が薬の開発や患者さんを治療するために重要な役割を果たしていることを実感しました。患者さんごとの薬の効果や副作用、感受性の個人差といったものが、合理的でしばしば非常に美しい数式で説明できることの知的充実感をぜひ学生さんたちにも味わって頂きたいと考えています。

大学生生活を充実させ、また社会人になってもやりがいのある仕事を続けるためには、自分のやりたいことをしっかりと定めることが大切であり、そうすれば自然とよい出会いにも恵まれます。そのためには薬剤師としての技能や態度をしっかりと身につけておくことも大切です。本学の学生さんたちが医療人としての自覚を持ち、サイエンスに基づいた議論ができ、また患者さんらとの適切なコミュニケーションがとれる立派な薬剤師となられますように、微力ながらも貢献して参りたいと思います。皆様にはこれから多々お世話になるかと存じますが、どうぞよろしくようお願い申し上げます。



基礎科学系  
健康科学分野  
准教授 長澤 吉則

今年4月1日付で健康科学分野に着任致しました。私は平成2年に金沢大学教育学部を卒業後、同大学大学院教育学研究科修士課程を修了し、(財)金沢市スポーツ施設管理事業団のスポーツ指導員として5年間勤務しました。その後、平成9年に秋田県立農業短期大学(平成11年に秋田県立大学短期大学部に改組)に講師として赴任し、4年間勤務しました。平成13年に秋田県立大学に講師として赴任し、助教授、准教授として8年間勤務しました。秋田県立大学在勤中の平成16年に金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程を修了し、学位を取得しました。専門種目はサッカーで、これまでの大学では監督を務めると同時に東北地区大学サッカー連盟の監事も担当させて頂きました。秋田では農学、工学、教育文化学の学生を対象に教育を行って参りましたが、医療系薬学部は初めてであり、如何に医療とスポーツを結びつけて学生支援をしていくかをテーマに鋭意努力していく所存です。

私は、これまで健康体力学、運動生理学、スポーツ統計学、体育測定・評価、等を専門とし、フィードバック情報に基づく神経-筋機能の測定法の確立や新たな生理・心理的評価法の開発を中心に研究を継続しております。一方、これまで、国体候補選手、一般市民、幼児の体力測定・診断を実施すると共に、中高年者を対象とした健康体力測定、運動処方、運動指導を実践してきました。健康体力の測定診断、評価、測定値に基づく運動処方の実践には現在も力を入れて取り組んでおります。これまでの研究実績では十分ではないかもしれませんが、生命科学分野での学位取得の経験があり、このことを十分生かして、健康科学分野の主テーマである医療とスポーツの研究をさらに継続・発展させていきたいと考えています。

もとより微力ではございますが、本学におきましても職務に専心努力いたす所存でございますので、今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



薬学教育系  
教育研究総合センター  
薬学教育研究センター  
(薬品製造学分野 兼務)  
准教授 細井 信造

4月1日より、薬学教育研究センター(薬品製造学分野兼務)の准教授として就任いたしました。私は本学を昭和58年に卒業し、金沢大学大学院修士課程、京都大学大学院博士課程を修了後、金沢大学薬学部に教務職員、助手として15年間勤務いたしました。平成15年より九州保健福祉大学薬学部に准教授として6年間務め、今年母校に戻る機会をいただきました。26年振りに戻りますと、私達が学んだ講義室などほとんどなくなっており、一抹の寂しさと隔世の感を覚えました。しかしながら、愛学館をはじめとする新しい立派な建物に、薬学研究・教育を担う重要拠点としての京薬の益々の発展性を肌で感じております。さて、最近、私立の歯学部、薬学部の定員割れが深刻な問題となっています。医師不足が叫ばれる中、医療の担い手を育成する医療系学部ですらこのような有様ですから、私立大学を取り巻く環境は今後厳しさを増すことは避けられない状況であります。このような状況の中、大学が生き残っていくためには、学生の大学に対する満足度を如何にして高めていくかを真剣に考えることが大切と考えます。薬学部の使命は、薬剤師免許を取得させ、かつ社会に出て高い評価を得ることができるような人材を育成することは言うまでもないことですが、その一方で、入学してくる学生の学力の低下も現在私達教員が直面している大きな問題であります。一昔前のように各教員が自分の好きなように教えればよいという時代は終わり、教育の重要性がこれまで以上に増してくると考えられます。物事の本質を理解しない、丸覚えの勉強はだめであり、理解してこそ身に付く勉強となると考えます。薬剤師の免許を取得することは、薬学部の最終ゴールではなく、あくまでも一つの通過点に過ぎません。博士の学位はよく「足の裏の飯粒」に例えられますが、薬剤師の免許も同じと思います。大学においては研究と教育は両輪ですので、うまくバランスをとりながら、本学に少しでも貢献できるよう教育・研究に邁進する所存です。今後とも宜しくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

本学の建学の理念である「愛学躬行」からその校舎名をとった『躬行館』が来年の2月末には完成します。来年度からは全ての授業・講義が『愛学館』と『躬行館』で行われることとなります。昭和48年、本学に生物薬学科が設置された年に竣工し、36年間の長きに亘り使われ、教養科目を中心とした1年次生の校舎として慣れ親しんできた南校舎での生活ともお別れです。『躬行館』には、「図書館棟」も併設されます。閲覧室が狭くて暗い図書館に替わって新しく明るい図書館が開設されるのです。

さあ、『躬行館』と『愛学館』で思いっきり勉学に励むことにしましょう！

そうそうそれに、『躬行館』には、新しい大きな食堂とコンビニも出来るのですよ。乞うご期待!!



2009年4月30日現在

昨年の工事開始以来、皆様方には通行や騒音でご迷惑、ご不便をおかけしておりますが、躬行館の工事は順調に進んでおります。

京都市による建築確認申請の許可の降りののが大幅に遅れたため、工事の着手が約30日遅れてスタートしましたが、現在は約15日の遅れまで挽回し、2010年2月末には当初の予定どおり完成する見込みです。

現在の進行状況は4月末現在で

〔図書館棟〕 出来高30%で1階の躯体施工中

〔講義棟〕 出来高30%で2階の躯体施工中です。

今後のスケジュールとしましては

〔図書館棟〕               ～2009年8月 地上躯体工事

2009年8月～2010年2月 仕上げ工事

〔講義棟〕               ～2009年9月 地上躯体工事

2009年8月～2010年2月 仕上げ工事

で、2010年3月に引越しの予定です。

工事現場には南側の府道から直接出入りできる仮設出入口を2箇所設けておりますが、施工状況等により本校地敷地内を工事車両が通行する場合があります。

安全確保、騒音対策等には十分配慮して工事を進めて行きたいと考えておりますが、皆様がたのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



躬行館（図書館棟）



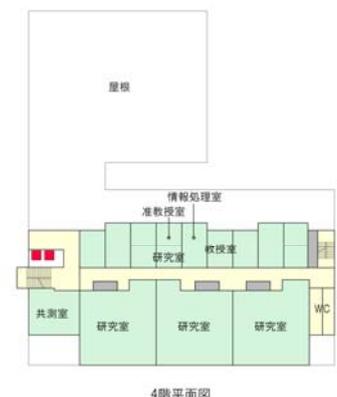
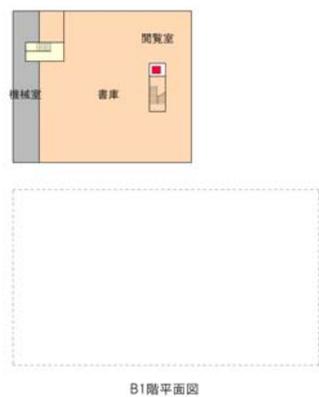
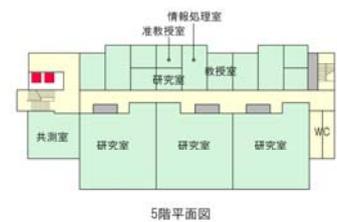
躬行館（講義棟）



図書館1階イメージ



図書館2階イメージ



躬行館 平面図

## 第94回薬剤師国家試験の結果と平成21年度の対策について

薬学教育研究センター

本学の第94回薬剤師国家試験の成績は、新卒の合格率が88.66%で、順位は全国薬系大学62校中25位でした。

今年度は国試の結果をもとに科目別の成績で全国平均を下回った衛生薬学と薬事法規の対策を重点的に行い、合格率の向上につなげたいと思っています。また、国家試験対策の対象となる4年制の4年次生が29人しかいないため、成績の如何に拘わらず全員薬学演習対象者として、薬学教育研究センターで勉強を始めてもらいます。しかし、人数が少ないからと言って対策に手を抜くことはありません。むしろ、今年は例年以上にきめ細かな対策を行うつもりです。しかし、いくら対策を行っても、本人が自覚して努力をしない限り成績は上がりません。これまで学内成績の良くなかった学生諸君は、努力が成績に反映されるまでに時間がかかりますので、できるだけ早い時期から勉強を始めて、基礎学力の向上に

努めてください。また、卒業試験や国家試験が近くと色々な「不安」が生じてきて勉強が手につかなくなりますので今からしっかり勉強して、自信を持って試験に臨めるように努力してください。

先日、第94回国家試験の解答アンケートを本学卒業生にお願いしましたところ、123人から回答がありました。国家試験解答結果は、次回に受ける後輩のために役立つ貴重な情報ですので、必ずセンターまで知らせてくれるようお願いします。

薬学演習、薬学特別演習の日程や連絡事項がリニューアルした薬学教育研究センターのホームページ（薬学演習・総合薬学演習）で閲覧できるようになりましたのでご利用ください。

今年は「全員卒業・全員国家試験合格」を目標にセンター教員も努力しますので、皆さんも頑張ってください。

### 「卒業生からのメッセージ」 転 職

**榎本 順一** 平成18年 製薬化学科  
(機能分子化学分野) 卒業  
  
株式会社マツモトキヨシ  
浜松中央店 勤務

私は平成18年に京都薬科大学を卒業後、公務員として社会人のキャリアをスタートしました。所属は近畿厚生局麻薬取締部。学生の皆さんにはあまり馴染みがないかもしれませんが、京都薬科大学の卒業生も数多く在籍しています。

実は私が薬学部進学を決意したのは麻薬取締部への憧れが大きかったのです。現在ではやや門戸が広げられましたが、当時、私は薬剤師免許を取得する以外に麻薬取締部への道がありませんでした。大学入学前から目標としていた職に就くことができた事は私にとって大きな喜びでした。

しかし、現実には理想のようにはいきませんでした。どうしても私には合わず、わずか1年強で退職しました。しかし後悔はありません。卒業後すぐに他業種についていれば、そちらを退職して麻薬取締部を目指していたでしょう。何故かそれほど思い入れがありました。転職を好まない日本ですから、きっと後者の方が後悔していたでしょう。

退職後は友人に誘われたこともあり、昨年秋から調剤業務に就いています。前職では学生時代に学んだ知識を使う場はほとんどありませんでした。国家試験から1年半、医薬品に触れる機会がなかったためブランクは大きく、勉強も大変ですが優秀な上司や先輩方に囲まれ、充実した日々を送っています。

現在の学部生は全員が薬学6年制、中でも4年次生は第1期生です。前例がなく手探りの状態で実習や就職活動、国家試験に挑まなければなりません。多忙な中でも将来について様々な可能性について考え、後悔のないように励んでください。

皆さんには何か思い入れがあるものはありますか？

最初に選んだ仕事为天職であることを祈っています。

# 2008年度授業評価集計結果の報告

教務部長

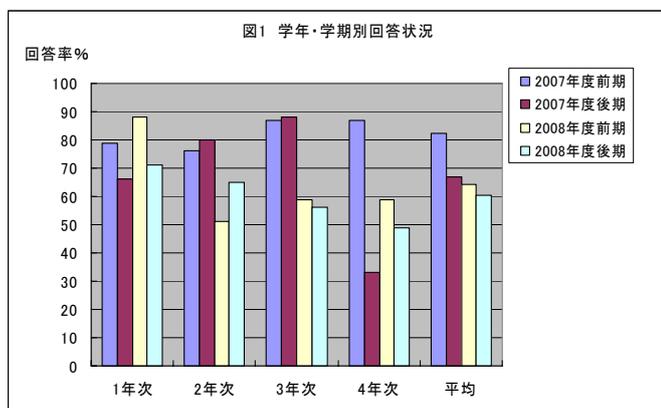
学生による授業評価は授業の改善を目的とし、学期ごとに実施しています。授業アンケートは2002年度から実施しており、各学年100名の学生を指名し、記名式で4段階評価を行っています。アンケート対象教員は専任教員および非常勤講師を対象としています。

アンケート用紙の配付と回収及び集計は教務課にて行い、次のとおり全講義科目の4段階評価の集計結果とその解析結果の概要を報告します。授業評価に関する10の設問および総合評価について表1に示しました。項目によってばらつきはありますが、いくつかの項目で昨年度よりポイントが上がりました。

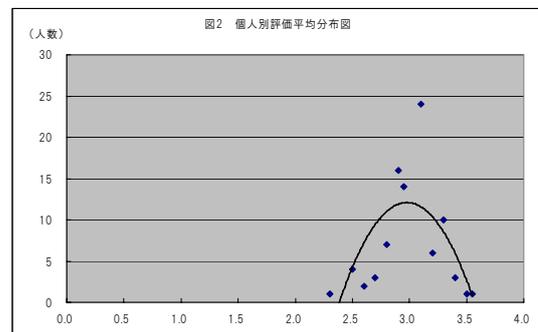
表1 設問項目別授業評価の全体平均

設 問	2008年度	2007年度
Q1.話し方が明瞭かつ丁寧に理解しやすかった。	3.1	3.0
Q2.板書が適切で授業の理解に役立った。	2.9	2.8
Q3.テキストやプリントなどの教材が適切に使用されていた。	3.2	3.1
Q4.授業はシラバスに沿って進められた。	3.2	3.1
Q5.よく準備され、熱意が感じられる講義である。	3.2	3.1
Q6.私語や態度の悪い学生に注意するなど、静かに授業が行なわれるように工夫されていた。	3.0	2.9
Q7.授業の進行速度は適切である。	3.0	3.0
Q8.余談やエピソードなど授業に対する関心を高める努力がなされていた。	3.0	3.0
Q9.授業内容の難易度は適切であった。	3.0	3.0
Q10.授業内容によって新しい学習意欲が湧いてきた。	2.9	2.8
Q11.この授業を総合的に評価してください。	3.1	3.0
項目平均	3.0	3.0

図1に示すように、学年別・学期別の回答状況は、1年次生の回答率が高くなりました。



教員個人別評価の分布は図2に示したとおり、平均値3.0でした。



授業評価の平均と授業科目分野区分との関係は図3に示されるように、ヒューマンイズム・イントロダクション・人と文化の科目が他に比べやや低くなりました。

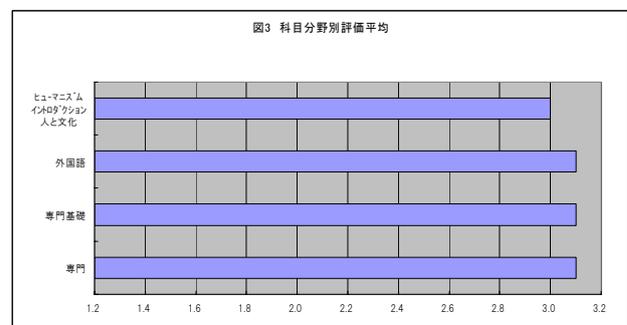
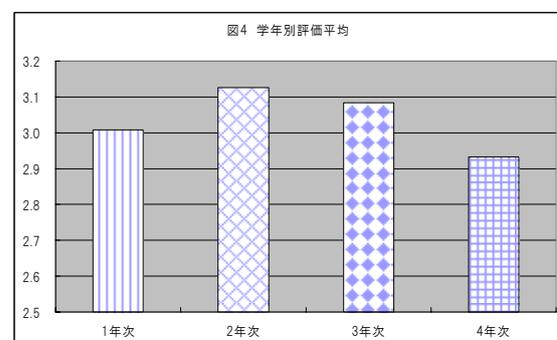
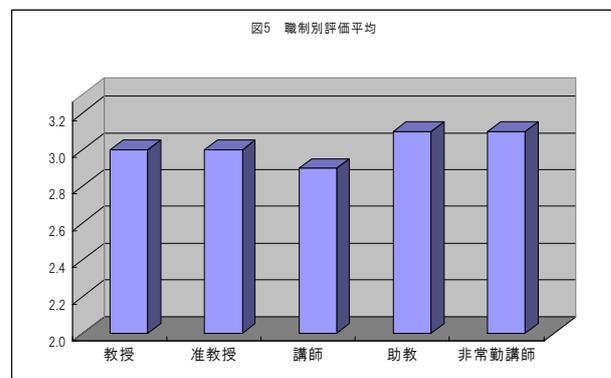


図4の学年別平均は、2・3年次が高い評価となりました。



次に職制との相関関係では図5に示すように、助教・非常勤講師の評価が他よりやや高く評価されました。



最後に今回の授業アンケートに協力してくれた学生へ御礼申し上げます。また、評価対象となった教員におかれては、アンケート結果を参考に、更なる授業改善につなげていただければ幸いです。

## 2009年度 試験関係日程

教務課

### 《試験日程》

シラバスにも掲載しているとおり、2009年度の試験日程は【表1】のとおりです。

4年制4年次については、前年次および当該年次科目について、卒業要件を充たすように単位修得してください。6年制4年次については、共用試験(CBT・OSCE)が実施されます。これらの試験で不合格の場合は進級要件を充たすことができなくなってしまうので、特に試験時間を間違ったりすることのないよう、留意して試験に臨んでください。

また、試験合格発表時、成績通知書を受け取る際には、「学生証」が必要ですので必ず持参してください(成績通知書の代理受取や試験結果に関する電話照会はできません)。不合格科目確認後、速やかに再試験受験手続をしてください。

「再試験受験許可書・領収書」については、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行を受けてください。

当該年度に履修登録した選択科目については、修得するよう努力してください。再試験の受験手続をしなくても構いませんが、再試験手続をしなかった場合は、前年次・前々年次科目再試験で受験することができなくなるうえ、当該年度中は平均点に算入されることとなります。

【表1】

年	試 験	試験期間	合格発表等	手続等
2009	1～4年次生 前期試験	7月17日(金) ～ 7月28日(火)	8月24日(月)に発表(予定) 成績通知書を教務課で配付します	—
	2～4年次生 前年次・前々年次 科目再試験	9月1日(火) ～ 9月4日(金)	(6年制2～4年次・4年制2～3年次) 10月中旬に配付する成績通知書に 記載 (4年制4年次) 卒業査定会まで発表しません	4月20日(月)・21日(火)
	1～4年次生 前期科目再試験	9月7日(月) ～ 9月11日(金)	(6年制1～4年次・4年制1～3年次) 10月中旬に配付する成績通知書に 記載 (4年制4年次) 卒業査定会まで発表しません	前期試験の合格発表当日と 翌日を「再試験受験願」 受付日とします 受付日(予定):8/24(月)・25(火)
	6年制4年次生 薬学共用試験 (OSCE)	12月19日(土) 12月20日(日)	発表方法については 掲示等でお知らせします	手続方法については 掲示等でお知らせします
	6年制4年次生 薬学共用試験 (CBT)	12月24日(木) 12月25日(金)		

【表1】

年	試 験	試験期間	合格発表等	手続等
2010	4年次生 後期試験	1月8日(金) ～ 1月15日(金)	1月27日(水)に発表(予定) 成績通知書を教務課で配付します	—
	1～3年次生 後期試験	1月12日(火) ～ 1月20日(水)	2月4日(木)に発表(予定) 成績通知書を教務課で配付します	—
	4年次生 後期科目再試験	2月4日(木) ～ 2月9日(火)	2月17日(水)に発表(予定) 成績通知書を教務課で配付します	後期試験の合格発表当日と 翌日を「再試験受験願」 受付日とします 受付日(予定):1/27(水)・28(木)
	1～3年次生 後期科目再試験	2月12日(金) ～ 2月19日(金)	進級査定会まで発表しません	後期試験の合格発表当日と 翌日を「再試験受験願」 受付日とします 受付日(予定):2/4(木)・5(金)
	6年制4年次生 薬学共用試験 CBT再試験	2月16日(火)	進級査定会まで発表しません	手続方法については 掲示等でお知らせします
	6年制4年次生 前・後期科目 再試験Ⅱ	2月23日(火) ～ 3月2日(火)	進級査定会まで発表しません	【前期科目】 受付日(予定):10/28(水)・29(木) 【後期科目】 後期科目再試験の合格発表当日と 翌日を「再試験Ⅱ受験願」 受付日とします 受付日(予定):2/17(水)・18(木)
	6年制4年次生 薬学共用試験 OSCE再試験	3月8日(月)	進級査定会まで発表しません	手続方法については 掲示等でお知らせします

## 《成績通知・合格発表》

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～2年次生は学生相談員から3～4年次生は分野主任から受け取ってください(特別実習を選択していない4年制学生は、引き続き「学生相談員」から受け取ってください)。

なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区 分	年 次	配付日程	保証人(父母)への送付
前期終了時の 成績通知書	全学年 ※以下の内容は除く ・4年制4年次 前年次科目再試験 前期科目再試験	10月8日(木) ～ 10月15日(木)	10月下旬
	4年制4年次	2月25日(木)～ (卒業査定会後配付します)	—
後期終了時の 成績通知書	4年制2～3年次 6年制1～3年次	3月16日(火)～ (進級査定会後配付します) 3/31(水)まで	4月中旬～下旬
	6年制4年次	3月23日(火)～ (進級査定会後配付します) 3/31(水)まで	

## 2010年度 学部入学試験概要

2010年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。

受験生や高校生向「大学案内」「データブック」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

### 1.入学定員・募集人員・入学試験日程

学 部	学 科	入 学 定 員
薬学部	薬学科	360名

	特 別 選 抜 推 薦 入 学		一 般 選 抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (センター前期)	一般B方式 (一般入試)	一般C方式 (センター後期)
	募集人員	62名	83名	30名	180名
出願期間	2009年10月23日(金) ～ 2009年11月6日(金) 必着		2010年1月5日(火) ～ 2010年1月15日(金) 当日消印有効	2010年1月5日(火) ～ 2010年1月26日(火) 当日消印有効	2010年2月23日(火) ～ 2010年3月8日(月) 当日消印有効
試験日	2009年11月16日(月)	2009年11月21日(土)	2010年1月16日(土) 2010年1月17日(日) 個別試験はなし	2010年2月3日(水)	2010年1月16日(土) 2010年1月17日(日) 個別試験はなし
合格発表日	2009年11月28日(土)		2010年2月12日(金)	2010年2月11日(祝・木)	2010年3月13日(土)

### 2.検査項目等

区 分	推薦入学(指定校制)
項 目	面接および調査書を基に総合的に判定します。

区分	推薦入学(一般公募制)
項目	英語と化学に関して薬学を修めるための適性を審査する I: 英語(英語I・英語II・リーディング) II: 化学(化学I)
面接と調査書等を加えて総合的に合格者を決定します。ただし、一定基準に達しない科目があれば、不合格になることがあります。	

区分	一般A方式(センター前期)	配点
教科		
数 学	「数学I・数学A」、「数学II・数学B」	200
外国語	「英語」(リスニングの成績は利用しない)	200
国 語	「国語」(近代以降の文章のみ利用する)	100
理 科	「化学I」(必須)、 「物理I」、「生物I」から1科目(選択)*	200

\*「物理I」と「生物I」の2科目を受験した場合はどちらか高得点の科目を合否判定に使用します。

区分	一般B方式(一般入試)	配点
教科		
数 学	数学I、数学II、数学A、数学B(数列、ベクトル)	200
外国語	英語(英語I、英語II、リーディング、ライティング)	200
理 科	「化学I」・「化学II」(「生活と物質」あるいは「生命と物質」を出題する場合はともに出題し、どちらかを選択させる)	200

区分	一般C方式(センター後期)	配点
教科		
数 学	「数学I・数学A」、「数学II・数学B」	200
外国語	「英語」(リスニングの成績は利用しない)	200
理 科	「化学I」	200

## 2010年度大学院薬科学専攻\*博士前期課程入学選考の概要

\*設置届出準備中

	一般入試	他大学生特別入試	推薦入試	社会人入試	備考	
募集人員	薬科学専攻 5名 (他大学生特別・推薦・ 社会人入学者を含む)	若干名	各分野薬科学専攻1名	若干名	*1:このうち、文部科学省の大学院入学基準を満たした専修学校専門課程の修了者又は、高等専門学校の専攻科を修了した者については、薬科学研究に必要な科目を履修した者	
募集分野	・薬科学専攻 20分野					
出願資格	・大学卒業生(本学卒業見込生を含む) ・その他は要項参照	・他大学卒業生(他大学卒業見込生を含む) ・本学が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者*1	・本学卒業見込生 ・学業成績、人物ともに優れている者 ・所属分野を専願する者	大学卒業後、社会人として1年以上の社会的経験を有する者(出願時において)		
出願書類 (通常の書類に追加して出願時に提出する書類)	_____	志願理由書 成績証明書	研究報告書 2009年8月17日(月) ～ 2009年8月19日(水)	志願理由書 成績証明書 実務実績書		
関係日程	出願期間	2009年10月2日(金) ～ 2009年10月9日(金)	2009年6月19日(金) ～ 2009年6月26日(金)	2009年10月2日(金) ～ 2009年10月9日(金)		
	試験	2009年10月17日(土)				
	合格発表	2009年10月22日(木) 午後予定				
試験科目	入学手続期限	2009年11月5日(木) <入金納付期限> 2010年3月25日(木) <授業料前期分納付期限・入学手続書類提出期限>				
	外国語 (英語)	4問題 全問解答  80点(20点×4)	4問題のうち問1,問2から1題、問3,問4から1題の2問題を選択解答  40点(20点×2)	_____	_____	
試験科目	薬学専門	基礎科目 有機化学、物理化学、生化学の3科目 必須(6問題) 90点 (30点×3科目)  専門科目*2 I～IV群の16科目から2科目(2問題)を選択解答 同一群からは1科目を限度 30点 (15点×2科目)	基礎科目 有機化学、物理化学、生化学の3科目 必須(6問題) 90点 (30点×3科目)	_____	_____	*2:専門科目 I群 分析化学I、分析化学II、薬品化学、薬品合成化学 II群 生薬学、薬物動態学、薬剤学 病院薬学 III群 病態生理学、薬理学、臨床薬理学、薬物治療学 IV群 公衆衛生学、衛生化学、病態生化学、微生物学
	小論文他	_____	_____	小論文1題	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
	面接試問	_____	志願理由書を参考に試問	_____	志願理由書・実務実績書を参考に試問	【学識、説明能力、 自覚・意欲】

学校法人京都薬科大学平成20年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、評議員会の意見を聞き、5月22日開催の理事会で審議の結果、表1、表2、表3のとおり承認されました。

当年度に実施した主な学舎整備事業といたしましては、薬学6年制教育充実のため、躬行館建設に着手しました（平成22年2月竣工予定）。この関連工事として8号館西側の一部および体育館西側クラブボックスの取り壊しを行いました。

また、前年度に売却した蓬莱セミナーハウス売却代金から、学生への還元策の一環として、老朽化した体育館の床全面張替工事、グラウンド整備工事および軽音楽部練習場の防音工事等を行いました。その他の主な工事として、動物研究センター空調改修工事、薬用植物園にシャワー室の設置、トイレの改修および防犯セキュリティ工事を行いました。

省エネ対策としては、S棟および創薬科学フロンティア研究センターに電力使用量モニタリング装置を設置し、省電力とCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組みました。

その他の主な事業としましては、奨学金制度の充実を図るため、第3号基本金組入計画を策定し、セミナーハウス売却代金の残額1億2千万円を組入れ、組入最終年度の平成26年度には、第3号基本金総額を20億円台まで増額することとしています。

平成20年度決算の概要は次のとおりです。

#### 資金収支計算書総括表（表1）

学生納付金収入は、若干予算額を上回り3,154百万円になりました。手数料収入は、入学志願者数が前年より209名減（△8%）の2,421名となりましたが、96百万円とほぼ予算どおりです。寄附金収入は、42百万円と予算額を若干下回りました。奨学金制度充実のための寄附募集を行ったことから、特別寄附は予算額を上回りましたが、研究助成寄附金が低調に終わりました。補助金収入は、一般補助や特別補助の経常費補助金を中心に510百万円と、予算額を若干下回りました。資産運用収入は、97百万円でサブプライム問題等により、期中に金利低下もありましたが予算額を上回りました。事業収入は、委託事業収入が予算額を若干上回り、65百万円となりました。

一方、資金支出では、人件費は、退職した教育職員の補充が遅れたこともあり、1,605百万円と予算額を大幅に下回りました。教育研究経費は、補助事業の規模縮小や研究費の使途を研究用機器に振替執行したことおよび繰り越したことから、予算額を大幅に下回り、821百万円となりました。管理経費支出は、経費節減等により予算内に収まりました。施設関係支出では、京都市景観条例の制定などによる

建築確認の遅れに伴い、躬行館建設の着工が1ヶ月遅延したことから、建設費の支払が予算額を下回り842百万円となりました。設備関係支出では、研究用機器の購入が増え、161百万円と予算額を上回りました。資産運用支出は、組入計画に基づく躬行館建設のための300百万円積立ておよび奨学基金に120百万円を積み増ししました。その他は、引き当て資産の統合に係る繰り入れおよび国債満期償還金の繰入です。

以上により、次年度繰越支払資金は、3,610百万円と予算を大幅に上回りました。

#### 消費収支計算書総括表（表2）

帰属収入は、資産運用収入、雑収入等の増により予算を25百万円上回り4,184百万円となりました。また、基本金の組入れは、当年度の施設設備関係支出は1,003百万円でしたが、第2号基本金から700百万円の振替を行ったこと、229百万円の除去があったことから第1号基本金組入額は97百万円となりました。第2号基本金は組入れ計画どおり300百万円、第3号基本金へは奨学基金へ120百万円組入れ、合わせて547百万円の基本金組入れとなった結果、消費収入の部合計は、286百万円増の3,636百万円となりました。

一方、支出においては、人件費、教育研究経費、管理経費の減により予算を290百万円下回り、消費支出の部合計は3,360百万円となりました。この結果、当年度消費収支差額は276百万円の収入超過になり、翌年度に繰越す消費収支差額は421百万円の収入超過となっています。

また、当年度の消費収支決算においては、経営判断の指標となる帰属収支差額（帰属収入合計－消費支出合計）が823百万円となり、帰属収支差額比率は、19.7%となりました。

#### 貸借対照表（表3）

有形固定資産は、躬行館建設着工に伴う建設費の支払が発生したことから前年比250百万円増の11,639百万円になりました。その他の固定資産は、第2号基本金へ300百万円、第3号基本金へ120百万円の組入、引当資産の積み増しを行いました。躬行館建設費に充当するため第2号基本金引当資産を700百万円取り崩したため前年比82百万円減少し11,257百万円となりました。また、流動資産は、施設関係支出の大半を第2号基本金の取崩しにより処理したため、現預金が577百万円増加し、前年比719百万円増の3,823百万円となりました。その結果、資産の部合計は26,719百万円となり、887百万円の増加となっています。

負債のうち、固定負債1,005百万円は全額退職給与引当金です。流動負債854百万円は、未払金、前受け

金、預り金を計上しています。平成21年度入学生の授業料等前受金が増加したため、前年比75百万円増となりました。この結果、負債の部合計は1,860百万円となっています。

基本金の部は、第2号基本金には組入れ計画に基づく300百万円と運用収入23百万円を組入れましたが、躬行館建設資金として700百万円を第1号基本金へ振替えたため、差引375百万円の減の4,207百万円とな

りました。第3号基本金には奨学金制度充実を図るため120百万円と運用収入計5百万円をそれぞれ組入れています。その結果、基本金の部合計は24,437百万円となり、前年比547百万円の増加となりました。

消費収支差額の部は、当年度収支は276百万円の収入超過となり、前年度からの繰越収支差額145百万円を合わせて消費収支差額の部合計は421百万円となりました。

表1 資金収支計算書(総括表)

平成20年4月1日～平成21年3月31日(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,148,400	3,154,544	△ 6,144	人件費支出	1,752,000	1,605,242	146,757
手数料収入	97,000	96,049	950	教育研究経費支出	979,200	821,098	158,101
寄付金収入	46,000	42,015	3,984	管理経費支出	197,200	176,508	20,691
補助金収入	518,100	510,653	7,446	施設関係支出	1,134,500	842,619	291,880
資産運用収入	86,100	97,807	△ 11,707	設備関係支出	143,200	161,295	△ 18,095
資産売却収入	3,999,300	3,999,300	0	資産運用支出	8,374,800	12,367,802	△ 3,993,002
事業収入	60,200	65,508	△ 5,308	その他の支出	495,900	513,056	△ 17,156
雑収入	183,000	201,511	△ 18,511	予備費	20,000		20,000
前受金収入	670,500	753,351	△ 82,851	資金支出調整勘定	△ 102,000	△ 125,415	23,115
その他の収入	5,115,500	8,864,588	△ 3,749,088	次年度繰越支払資金	2,993,900	3,610,426	616,526
資金収入調整勘定	△ 828,600	△ 845,200	16,600				
前年度繰越支払資金	2,892,900	3,032,505	△ 139,605				
収入の部合計	15,988,400	19,972,635	△ 3,984,235	支出の部合計	15,988,400	19,972,635	△ 3,984,235

表2 消費収支計算書(総括表)

平成20年4月1日～平成21年3月31日(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,148,400	3,154,544	△ 6,144	人件費	1,718,000	1,592,822	125,177
手数料	97,000	96,049	950	教育研究経費	1,546,600	1,387,779	158,820
寄付金	66,000	58,319	7,680	管理経費	262,200	248,170	14,029
補助金	518,100	510,653	7,446	資産処分差額	103,800	131,803	△ 28,003
資産運用収入	86,100	97,807	△ 11,707	(予備費)	20,000		20,000
事業収入	60,200	65,508	△ 5,308	消費支出の部合計	3,650,600	3,360,576	290,023
雑収入	183,000	201,511	△ 18,511	当年度消費収支差額	△ 300,800	276,152	
				前年度繰越消費収支差額	△ 68,800	145,711	
帰属収入合計	4,158,800	4,184,393	△ 25,593	基本金取崩額			
基本金組入額合計	△ 809,000	△ 547,664	△ 261,335	翌年度繰越消費収支差額	△ 369,600	421,864	
消費収入の部合計	3,349,800	3,636,728	△ 286,928				

表3 貸借対照表(総括表)

平成21年3月31日現在(単位:千円)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	22,896,597	22,729,402	167,195	固定負債	1,005,402	1,017,822	△ 12,419
有形固定資産	11,639,153	11,389,080	250,072	流動負債	854,670	779,057	75,613
その他の固定資産	11,257,444	11,340,321	△ 82,877	負債の部合計	1,860,073	1,796,879	63,193
流動資産	3,823,190	3,103,374	719,815	基本金の部			
現金預金	3,610,426	3,032,505	577,920	科 目	本年度末	前年度末	増 減
その他の流動資産	212,763	70,868	141,895	第1号基本金	18,865,005	18,067,423	797,582
				第2号基本金	4,207,096	4,582,323	△ 375,226
				第3号基本金	1,137,747	1,012,439	125,308
				第4号基本金	228,000	228,000	0
				基本金の部合計	24,437,850	23,890,185	547,664
				消費収支差額の部			
				科 目	本年度末	前年度末	増 減
				翌年度繰越消費収入超過額	421,864	145,711	276,152
				翌年度繰越消費支出超過額			
				消費収支差額の部合計	421,864	145,711	276,152
資産の部合計	26,719,787	25,832,776	887,010	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	26,719,787	25,832,776	887,010

(注)減価償却の累計額の合計額 6,823,343千円

表1、表2、表3とも単位未満切捨て

## 米国におけるFD活動の視察報告

薬学教育系 教育研究総合センター 情報処理教育研究センター 准教授 深田 守

本学も連携校として参加している「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」（代表校：佛教大学、事務局：大学コンソーシアム京都）が、平成20年度戦略的大学連携支援事業で選定されました（KPU<sub>NEWS</sub>2008年10月号13頁参照）。これは京都地域の大学・短期大学のFD活動を推進するための連携プロジェクトですが、その活動の一環として2009年2月16日～22日の日程でスタンフォード大学、サンマテオカレッジ、WASC（西部地区認証協会）へ訪問・視察に行ってきました。私以外の視察メンバーは、龍谷大学と大谷大学から教員が1名ずつ、コンソーシアム京都からスタッフが2名の計5名で、視察内容は下記のスケジュールで行われました。

### 2月17日（火）：スタンフォード大学 Sweet Hall

1. CTLについて Michele Marincovich
2. 学部（理系）におけるFDの取組について  
Robyn Wright Dunbar
3. ランチミーティング
4. チュータリングシステムについて
5. CTLの学内での位置づけ、学部（文系）におけるFDの取組について Mariatte Denman

### 2月18日（水）：スタンフォード大学 Cordura Hall

1. スタンフォード大学の概要と特徴について  
Keith Devlin
2. スタンフォード大学在学生たちとの懇談

### 2月19日（木）：スタンフォード大学

#### Wallenberg Hall/Alumni Center

1. eポートフォリオについて Helen L. Chen
2. Professional Developmentとしてのレッスン・スタディについて 中植 正剛
3. 大学間連携を成功させるためのコツについて  
John B. Nash
4. 自分の専門分野を周囲に伝えるためのコツについて  
Carolyn Gale
5. ICT教室(Wallenberg Hall)施設見学  
Adelaide Dawes

### 2月20日（金）：サンマテオカレッジ及び、

#### WASC(Western Association of Schools & Colleges)

1. サンマテオカレッジの概要とサンマテオカレッジにおけるFDの取組について  
Henry B. Villareal, Martin Bednarek
2. WASCにおける認証評価について  
Richard A. Winn



スタンフォード 大学キャンパス

初日に訪問したスタンフォード大学のCTL(Center for Teaching and Learning)は米国の高等教育機関の中でも早くからFDに関する研究に取り組んでいて、CTLの活動内容を知ることは今回の私たちの視察目的において重要な位置付けでした。米国屈指の名門校として有名なスタンフォード大学ですが、緑の芝生が広がった敷地に立派な建物が見えて、ほんとに美しい大学という印象を受けました。CTLでは自然科学や社会科学のPh. D.を持つFDの専門家が3名おり、学内のいろいろな分野の教員に対して教育法改善のコンサルタントをしています。スタンフォード大学の教員は世界的にレベルの高い研究者であるだけでなく、良い教育者でもあることが要求されるので、CTLに相談にくる教員がかなりいるということでした。テニユア・トラック制度（任期付きで雇用された若手研究者が、教育・研究の経験を積んだ後に、審査を受けてから専任教員になるという制度）があるので、教員にとってテニユアを獲得するまでの期間はかなり重圧になるようです。



CTLの概要・役割について説明するProf. Marincovich

2日目は、人文科学・技術高等研究所(Human Science & Technologies Advanced Institute)を訪問しました。ここでは、若手の研究者や大学院生の研究面でのサポートを行っていて、研究の進め方から、産学連携や会社の起業の仕方などのアドバイスもしています。有名なGoogleも、起業者がスタンフォード大学の出身ですが、こういう大学の気風から生まれたのだという話でした。午後からは学生食堂で、在学生5名と懇談会を持ちました。専攻は異なるのですが、全員日本語も少しは話せて、いろいろ率直な意見を聞くことができました。日本と比べて、大学時代の成績や活動がより密接に就職に繋がることや、大学での学習が社会的な活動にどう生かせるかという意識が強いことなども話題になりました。また、大阪大学に留学経験がある医学専攻の学生もいて、池田先生(本学前学長)をよく知っているという話が出ました。



学生食堂にて、スタンフォード大学生との懇談の様子

3日目は、教育におけるイノベーションの研究を行っているSCIL(Stanford Center for Innovations in Learning)を訪問して、5名の研究者から話を伺いました。その中で、学生に限らず、自己が学習してきたことや、種々の活動内容を電子化したデータとして保存していき、就職や転職などにも活用できる



SCILのセミナー室にて、eポートフォリオの講演

という「eポートフォリオ」の話があり、これは今後、日本でも取り入れられるのではないかと興味を持ちました。

最後の視察日は、Community Collegeとよばれるサンマテオカレッジと米国西部地区における認証協会であるWASC(Western Association of School and Colleges)を訪問しました。Community Collegeというのは、人種や年齢層の広い学生が学ぶ、米国ではポピュラーな2年制の大学で、名門のスタンフォード大学と対比する意味で視察先に選ばれました。サンマテオカレッジでは、教育業務が重視され、ここでもCTLが設けられて教員の教育力向上に寄与しているということでした。また、WASCというのは、大学の評価認定を行っているところで、各大学において教育成果がどれだけ向上したかを検証するために、非常に細かいチェック方法を採用していることなどを伺いました。

私はこの大学連携プロジェクトで、FDシステムを構築するためのグループに入っているのですが、参考のためにぜひ海外のFDシステムを見てきて欲しいといわれ、今回の視察に行くということになった次第です。米国へは行ったこともなく、国外へも30年以上出たことがないので、英語でFDに関する議論などできないのではと心配していたら、通訳がついてくれるというので、ほっとしました。スタンフォードはシリコンバレーの中心的地域で、IT教育を担当するものとして、街を見て回りたいと期待していたのですが、朝から夕方までびっしり視察研修時間に充てられており、食事もグループ全員でしていたので、毎日、大学とホテルを往復しただけで、観光はほとんどできませんでした。ただ、米国での最終日はフリーになっていたのも、サンフランシスコ市内を観光して、ケーブルカーに乗ったり、Golden Gate Bridgeを渡ったりと、アメリカな雰囲気を楽しめることができました。ところで、サンフランシスコも最近は治安が悪化しているようです。コーヒーショップで一人休んでいて、たまたま店外を見た時に目が合った若い男が店の中に入ってきて、英語で金をよこせと私に言いました。私が「I can't speak English」と言うと、彼はゆっくりと話し始めたので、今度は「エイゴ、ワカリマセン」と言ったのですが、効果がありません。どうしたものかと思っていたところ、店のスタッフが気にしてこちらへきてくれ、男は慌てて店外へ逃げて行きました。

今回の海外視察で、大学での日常業務を離れて、他大学の教員やコンソーシアム京都のスタッフと視察をしながら、議論を重ねることで、教育と研究の役割分担やFDなどについていろいろ考える時間が持てました。そこで得られたものを本学のこれからの問題解決に少しでも役に立てていければと思います。

研究資金には毎年大学から支給される研究費のほか、国から助成される科学研究費（私学助成金を含む）、財団から助成される研究費、企業からの寄付金や受託研究費などがあります。国からの研究費は文部科学省をはじめ厚生労働省、経済産業省などから助成されていますが、いずれも厳しい審査の結果、採択されます。採択率はほぼ20%台といわれています。最も金額の大きいのが文部科学省の「科学研究費補助金」（略して科研費と呼んでいます）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

下表には代表者のみ記載されていて、分担者として他の大学の先生と共同研究をされている場合は含まれていません。

また、一人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けてあり、3件程度が限度です。

今年は全部で48件申請して、26件[採択率54.2%、総額63,900千円（但し、新規申請採択率29.1%、転入者を含む総額70,270千円）]が採択されました。[特別研究員奨励費は除く。新学術領域研究、若手研究（S）、若手研究（スタートアップ）については、申請中です]

平成21年度 科学研究費補助金配当一覧表

研究種目	研究代表者	分野名	研究課題	交付予定額 (千円)	新規・継続等
基盤研究(A)	木曾 良明	薬品化学	分子認識に基づく難病治療薬のデザインと 医薬化学研究	17,810	新規
基盤研究(B)	小暮 健太郎	薬品物理化学	糖尿病遺伝子治療を目指した非侵襲的な 皮内遺伝子送達システムの開発	4,160	継続
基盤研究(C)	秋葉 聡	病態生化学	メタボリックシンドロームの進展要因となるHDL の産生抑制と肝脂肪蓄積の発現機構	1,430	継続
基盤研究(C)	西口 工司	臨床薬学	大腸癌化学療法における経口フッ化ピリミジン 系代謝拮抗剤の適正使用に関する研究	1,430	継続
基盤研究(C)	竹内 孝治	薬物治療学	胃・十二指腸重炭酸イオン分泌における 局所性調節に関する研究	1,040	継続
基盤研究(C)	加藤 伸一	薬物治療学	非ステロイド性抗炎症薬による小腸傷害における 腸管マクロファージの役割に関する研究	1,560	継続
基盤研究(C)	安井 裕之	代謝分析学	肥満抑制および改善作用を有する亜鉛含有 医薬品の開発	1,430	継続
基盤研究(C)	上西 潤一	薬化学	1,3-不斉転写を鍵とする分子内SN2型環化 反応と複素環状天然物の全合成研究	1,690	新規
基盤研究(C)	吉川 雅之	生薬学	エジプト産天然薬物を素材としたメタボリック シンドローム予防物質の探索	1,820	新規
基盤研究(C)	北出 達也	薬品分析学	分子インプリントポリマーを感応素子とした 針状微小電位検出型人工免疫センサーの開発	2,600	新規
基盤研究(C)	長澤 一樹	衛生化学	無刺激及びストレス負荷状態でのP2X7受容体 を介した神経-アストロサイト機能連関	1,690	新規
基盤研究(C)	齋藤 一樹	薬品化学	EGFレセプター-の構造特性にもとづくペプチド 性阻害薬の設計・探索	2,210	新規
基盤研究(C)	渡辺 徹志	公衆衛生学	糖尿病モデル系による新規内因性化学発がん 要因の検索及びそのリスク評価	1,300	新規
基盤研究(C)	小原 幸	臨床薬理学	心疾患におけるミトファジーの病態生理学的意義 の検討、および治療への応用	2,080	新規
基盤研究(C)	向井 秀仁	薬品化学	タンパク質構造に隠れた生体機能ペプチド 「クリプタイド」による生体調節機序の解明	2,210	新規
基盤研究(C)	長澤 吉則	健康科学	視覚・固有受容系による各種動的筋力発揮調 整能の優先性に関する研究	1,300	他機関より転入
基盤研究(C)	細井 信造	薬学教育研究センター (薬品製造学)	量子化学計算を用いた誘起CD励起子相互 作用による天然物の絶対配置決定法の確立	1,560	他機関より転入
基盤研究(C)	村上 啓寿	生薬学	活性天然物由来ブローブ分子による新規抗 がんおよび抗HIV標的蛋白の解明	1,560	他機関より転入
挑戦的萌芽研究	橋本 貴美子	薬化学	腹菌類ニセシオウロ属の分類法と毒性に関する研究	1,300	新規
挑戦的萌芽研究	谷口 隆之	病態生理学	骨髄由来細胞の脳障害部位へのホーミング 機能を利用した神経保護薬送達法樹立への挑戦	1,500	新規
若手研究(B)	河井 伸之	薬化学	連続した四級不斉炭素を有する天然物の 効率的合成法の開発	1,950	継続
若手研究(B)	辻本 雅之	臨床薬学	腎不全患者における薬物体内動態擾乱因子 の探索と薬物適正使用法の確立	1,820	継続
若手研究(B)	鳥羽 裕恵	臨床薬理学	メタボリックシンドローム治療におけるアンジオ テンシンII受容体拮抗薬の有用性の検討	1,430	継続
若手研究(B)	勝見 英正	薬剤学	NO消去機能を賦与した活性酸素消去酵素 のDDS開発と敗血症性ショック治療への応用	1,170	継続
若手研究(B)	高田 和幸	病態生理学	神経障害部位特異的な薬物送達方法の開発	2,080	継続
若手研究(B)	濱 進	薬品物理化学	がん微小環境応答性の細胞内取り込み促進 型ナノ粒子の構築および抗腫瘍作用の検討	2,210	新規
若手研究(B)	藤井 正徳	薬理学	ヘアレスマウスを用いたアトピー性掻痒 モデルの開発	1,300	新規
若手研究(B)	日高 興士	薬品化学	水素結合架橋水を配置する擬似対称型プロ テアーゼ阻害剤の設計研究	2,470	新規
若手研究(B)	高良 恒史	臨床薬学	大腸癌の抗癌剤感受性を予測するバイオ マーカーの同定と臨床的応用	2,210	他機関へ転出
若手研究(B)	石原 慶一	病態生化学	ダウン症マウスモデルの脳における神経 伝達物質の包括的解析と新規治療標的 分子の同定	1,950	他機関より転入

学生用図書（前期）の購入
--------------

2009年度の学生用図書前期分が決まりました。

書名	著者名	出版社名
innovated分析化学プラクティス	安井裕之, 吉川豊著	京都廣川書店
アディポネクチンとその受容体	門脇孝編	フジメディカル出版
イラスト・図解はじめての微分積分	塚越一雄著	技術評論社
イラスト・図解確率・統計のしくみがわかる本	長谷川勝也著	技術評論社
オープンソースで始めるゲノム・プロテオーム・メタボローム解析	樋口千洋著	オーム社
がん医療におけるコミュニケーション・スキル	内富庸介, 藤森麻衣子編集	医学書院
きらめく数学(リベラル・アーツ ナチュラルサイエンスシリーズ)	宇野勝博, 菅原邦雄著	プレアデス出版
グリム童話・伝説・神話・文法小辞典	下宮忠雄編著	同学社
できるExcel 2007の「困った!」に答える本(できるシリーズ)	きたみあきこ, できるシリーズ編集部著	インプレスジャパン
ドイツの標準語: その生い立ちと辞典の個性	根本道也著	同学社
ドイツ語史: 社会・文化・メディアを背景として	須澤通, 井出万秀著	郁文堂
はじめてのWindows Vista(Basic master;250, 278)	村松茂著	秀和システム
はじめての図解パソコン入門(BASIC MASTER SERIES; 292)	大沢文孝監修, 秀和システム編集部編	秀和システム
パソコンのしくみ(カラー版徹底図解):最新ハードウェアのテク	Office Takasaku著	新星出版社
ブルース有機化学 第5版	Paula Y. Bruice著, 大船泰史 [ほか] 監訳	化学同人
マウス実験の基礎知識	小出剛編	オーム社
みんなのくらしと放射線	みんなのくらしと放射線知識普及実行委員会編	大阪公立大学共同出版会
ラマン分光法(日本分光学会測定法シリーズ; 17) 2刷	浜口宏夫, 平川暁子編	学会出版センター
わかりやすい化合物命名法	山本郁男, 細井信造 [ほか] 著	廣川書店
医学・保健学のためのやさしい統計学 改訂第2版	正井栄一著	金原出版
医薬研究者のための評価スケールの使い方と統計処理	奥田千恵子著	金芳堂
医薬品情報学:基礎・評価・応用 改訂2版	折井孝男編	南山堂
医療現場のコミュニケーション	箕輪良行, 佐藤純一著	医学書院
衛生薬学(CBT対策と演習)	薬学教育研究会編	広川書店
演習で理解する生物薬剤学	山本昌編	廣川書店
欧州化学物質規制ハンドブック	御園生誠監修	エヌ・ティー・エス
化学計算のための数学入門	Paul C. Yates著, 林茂雄, 馬場涼訳	東京化学同人
科学英語実用ハンドブック	Anthony T. Tu著	化学同人
基礎演習ハンドブック(K.G.りぶれっと;no.23)	関西学院大学総合政策学部編	関西学院大学出版会
基礎無機化学 改訂版	一國雅巳著	裳華房
機器分析(CBT対策と演習)	薬学教育研究会編	広川書店
結核の今昔:統計と先人の業績から学び、今後の課題を考える	島尾忠男著	克誠堂出版

他、全70点

## 図書館開館日程

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

**赤字**が休館日。開館時間：平日9：00～20：00、土曜日10：00～17：00（※7/29～8/21は9：00～17：00）  
臨時に休館する事がありますので、図書館掲示板で確認して下さい。

### 2008年度ベストリーダー

2008年4月1日から2009年3月31日までの本学図書館資料貸出し件数の多い順です。

順位	書名	著者名	出版社名
1	新有機化学・スタディガイド [原著第7版の翻訳]	T.W. Graham Solomons, Craig B. Fryhle, Robert G. Johnson	広川書店
2	わかりやすい化学実験	津波古充朝, 内藤猛章, 上地真一	廣川書店
3	新有機化学・スタディガイド [原著第9版の翻訳]	T.W. Graham Solomons, Craig B. Fryhle, Robert G. Johnson	広川書店
4	一問一答一般常識「頻出」1500問	角倉裕之	高橋書店
5	超速マスター!一般常識&時事問題	就職対策研究会編	高橋書店
5	履歴書エントリーシート志望動機自己 PRの書き方	就職総合研究所編	ゴマブックス
7	最新最強の作文・小論文	成美堂出版編集部編	成美堂出版
8	ソロモンの新有機化学 上.第7版	T. W. Graham Solomons, Craig B. Fryhle	広川書店
9	治療薬マニュアル	菊池方利 [ほか] 編	医学書院
9	ソロモンの新有機化学 下. 第7版	T. W. Graham Solomons, Craig B. Fryhle	広川書店
11	超速マスター!新面接スーパー攻略	渡邊剛	高橋書店
11	夢をかなえるゾウ	水野敬也	飛鳥新社
13	衛生薬学	福井昭三, 平山晃久編	廣川書店
13	超速マスター!Eメール・履歴書・エント リーシート成功実例集	細田咲江, 上田晶美	高橋書店
13	TOEICテストこれ1冊で全パートをモノに する	仲川浩	こう書房
13	基礎薬学(薬剤師国家試験対策)	日本医薬アカデミー編	日本医薬アカデミー
17	容疑者Xの献身	東野圭吾著	文藝春秋
17	最新最強の作文・小論文	成美堂出版編集部編	成美堂出版
17	面接の常識:最後に受かる人、落ちる人 はココで決まる!	新星出版社編集部編	新星出版
17	医療薬学(薬剤師・国試がわかる本)	テコム薬学セミナー	テコム薬学セミナー
21	陰日向に咲く	劇団ひとり	幻冬舎
21	放課後	東野圭吾	講談社
21	医療薬学	日本医薬アカデミー編	日本医薬アカデミー
21	公務員試験地方上級	成美堂出版編集部編	成美堂出版
21	化学系薬学 (スタンダード薬学シリーズ)	日本薬学会編	東京化学同人
21	有機化学(CBT対策と演習)	薬学教育研究会編	広川書店

## 受賞

## 9th RGM1 Meeting Award受賞

2009年2月28日に第9回RGM1研究会が東京・霞山会館で開催され、本学病態薬科学系薬物治療学分野の林周作さん（COE-RA：現在はポスト・ドクター）が発表した内容（演題：胃粘膜上皮の再構築に影響を及ぼす因子）が、RGM1 Meeting Awardを受賞しました。傷害胃粘膜上皮の修復にアクアポリン1の関与を示唆したことが評価されました。（RGM1：ラット胃粘膜上皮細胞株）



受賞の挨拶をする林君



表彰楯

骨粗しょう症治療薬パッチ製剤化の研究が  
日経バイオテク誌に紹介される

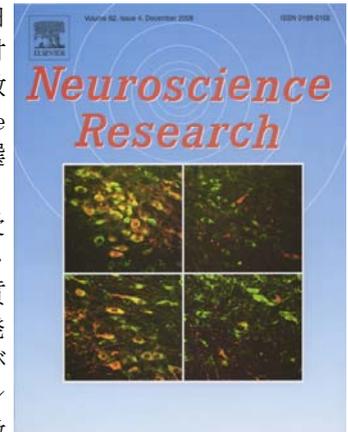
2009年3月26～28日、京都で開催された日本薬学会第129年会において薬剤学分野が発表した「骨粗しょう症治療薬アレンドロネートの経皮吸収製剤の開発」に関する研究が日経バイオテク誌(2009年3月28日付オンライン<http://biotech.nikkeibp.co.jp/bionews/detail.jsp?newsid=SPC2009032763353>)に掲載されました。ビスホスホネート製剤であるアレンドロネートは、現在、骨粗しょう症治療の第一選択薬として汎用されていますが、経口投与後の吸収性が悪く、また上部消化管障害を惹起するので、投与方法を工夫して有効かつ安全性の高い新規経皮吸収製剤（パッチ製剤）を開発したという内容です。アレンドロネートパッチ製剤が実用化できれば、アレンドロネートによる骨粗しょう症治療の質が向上されるばかりでなく、骨粗しょう症患者のコンプライアンス・QOLが著しく改善されるものと期待されます。本研究は、当分野の草森浩輔（修士2年）、阿部眞里（平成20年学部卒業、現在、修士2年〈病態生理学分野〉）、上田あすか（平成21年学部卒業）、林理恵、酒井遼太、平位由佳（4年）（敬称略）により行われた研究であり、現在、これまでの検討で得られた知見に基づき、より有効性と安全性に優れたパッチ製剤の開発を行うとともに、実用化を目指して臨床研究へ展開する準備を進めています。

病態生理学分野の研究論文が  
Neuroscience Research誌の表紙を飾る

病態生理学分野の柳田孝志さん（COE-RA）、北村佳久准教授、谷口隆之教授の研究がNeuroscience Research誌の表紙絵に選ばれました。

本研究は、ニコチン受容体の $\alpha 7$ サブユニット（ $\alpha 7$  nAChR）が中脳黒質のドーパミン神経細胞に発現していること、およびニコチンやガラントミンによる $\alpha 7$  nAChRの刺激がパーキンソン病モデルラットにおいてドーパミン神経保護作用を示すことを明らかにしたものです。写真は共焦点レーザー顕微鏡を用いて撮影したもので、ドーパミン神経細胞（赤）、 $\alpha 7$  nAChR（緑）を示したものです。

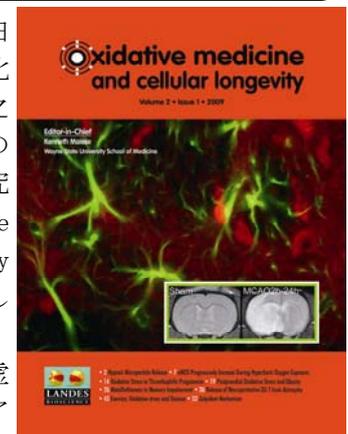
Yanagida, et al. Synergistic effect of galantamine on nicotine-induced neuroprotection in hemiparkinsonian rat model. *Neurosci. Res.*, 62, 254-261 (2008).

病態生理学分野・代謝分析学分野の研究論文が  
Oxidative Medicine and Cellular Longevity  
誌の表紙を飾る

病態生理学分野の柳田孝志さん（COE-RA）、北村佳久准教授、谷口隆之教授と代謝分析学分野の安井裕之教授の共同研究がOxidative medicine and cellular longevity誌の表紙絵に選ばれました。

本研究は、ラット脳虚血モデルの障害部位でアストロサイトが活性化し、神経保護作用を有するDJ-1タンパク質を発現誘導すること、およびin vitro培養細胞系でアストロサイトがDJ-1タンパク質を細胞外へ分泌することを明らかにしたものです。写真は共焦点レーザー顕微鏡を用いて撮影したもので、DJ-1（赤）、アストロサイト（緑）を示したものです。インセットはラット脳虚血モデルのMRIです。

Yanagida, et al. Oxidative stress induction of DJ-1 protein in reactive astrocytes scavenges free radicals and reduces cell injury. *Oxid. Med. Cell. Long.*, 2, 36-42 (2009).



## The 3rd Collaboration Meeting on GI Pharmacology

～Co-sponsored by Kyoto Pharmaceutical University and Yonsei University～

薬物治療学分野(M2) 中森由佳・本田真弥

2008年11月28日に、韓国の延世大学と合同でGI Pharmacology Meetingが本学愛学ホールにて開催されました。本Meetingは、今年で3回目となります。本学または延世大学にて年に1回、開催しており、前回は韓国で開催されました。双方の大学院生の口頭（英語）による研究発表が中心となっています。今回は、北里大学薬学部の大学院生も参加発表され、お互い英語による発表の経験が少ないながらも活発に討議がなされ盛会でした。

私たちは初めて英語で自分の研究内容を発表させていただく機会を与えていただきました。自らが独学で学んできた英語が本当に通じるのか不安もありましたが、竹内教授に、私が思いこんでいた英語の発音と、実際に通じる英語の発音の違いを教えてくださいました。発表練習を積み重ねた結果、当日の発表はスムーズに進み、内容を理解していただくことができました。しかし、質疑応答になると、頭の中でイメージする返答を即座に英語にすることができず、勉強不足を痛感しました。また、延世大学の大学院生は、自らの研究内容以外の分野もよく理解されており、このように広い視野を持つからこそ、自らの研究もより磨きがかかった物になっていくのだと感じました。

今回のプログラムは午前9時半より夕方まで、一般演題18題（全て大学院生による英語の口頭発表）と特別講演4題でした。特別講演では、延世大学のHyeong Kim教授、Jeong Seo准教授のほか、北里大学薬学部の中村正彦教授、本学名誉教授の岡部進教授に特別講演をして頂きました。肺炎と酸化ストレスに関する話題や、MALTリンパ腫におけるヘリコバクター菌の関与、アスピリン小腸傷害など、いずれも非常に興味深いものでした。

また学会後に行われた意見交換会では、以前行っ

た韓国旅行に関する話で盛り上がり、それをきっかけに、次々と様々な話をすることができました。コミュニケーションをとる時は、相手のこと、相手をとりにく環境をよく理解すること、そしてもちろん自分の身近な事を理解した上で、ようやくキャッチボールが成立すると思いました。

Meetingの翌日は、学外にて文献紹介セミナーを行い、さらには延世大学の方々に京都の文化や歴史についてより理解を深めていただくために京都観光へも行きました。セミナーでは双方の大学から6名が最新の話題に関して文献紹介を行いました。他の研究者との合同での文献紹介は、日頃、研究室で行っている時とはまた違った角度からの考察ができ、非常に有意義だったと思います。観光では、銀閣寺を囲む空気が澄んでいてとても清々しいものでした。また、紅葉のシーズンだったため山々の彩りがとても美しく、延世大学の方々にも日本の四季の素晴らしさを感じていただけたのではないかと思います。哲学の道では、歩きながら延世大学の方々とお互いの研究の話だけでなく、文化の話にも花が咲きました。日本語と韓国語の共通点について話し、日本語で「約束」、「分離」、「写真」は韓国語と同じような発音になるそうで、驚きました。また、清水寺では、延世大学の方々にはおみくじや音羽の滝などを通して寺院観光を満喫していただけたのではないかと思います。

今年は私たちが韓国に行って研究発表をさせて頂く番なので、日々、自分達の研究をさらに深めたいと強く思うようになりました。今回の経験によって、韓国の文化にも興味を持ち、またより広い視点で勉強を積み重ねて努力していこうと感じました。このような貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。



参加者全員で

## お 知 ら せ

## 2009年度「京薬祭」の開催に向けて

2009年11月1日（日）から3日（火・祝）まで開催されます京薬祭の成功に向けて、すでに実行委員会が活動を開始しております。

現在、実行委員長を中心に、スタッフが互いに知恵を出し合い、より有意義な学園祭にするため検討を重ねております。学生行事としての京薬祭が盛況となるよう、皆様の温かいご支援をお願い致します。

実行委員長 3年次生 野村 竜平（バスケットボール部）  
副実行委員長 3年次生 羽岡 秀幸（剣道部）  
文化部長 3年次生 小酒井啓之（軽音楽部）  
書記長 3年次生 中原正太郎（準硬式野球部）  
会計部長 3年次生 安行 美智（バレーボール部）  
庶務部長 2年次生 大石 利一（バレーボール部）

## 《実行委員長から一言》

意欲的な1年次生が入学され、早4ヶ月がたちました。11月初旬にある京薬祭に向けて、実行委員もそれぞれに与えられた仕事に意欲的に取り組んでいます。学生はもちろん一般の方にも楽しんでいただけるような企画、内容を検討中です。

当日は数多くの催し物を用意してお待ちしていますので是非、足をお運びくださいますよう、実行委員一同心からお待ちしております。

## 平成20年度山科消防署定例区民表彰について

2009年3月11日（水）に、山科消防署に於いて防火・防災等の活動に意欲的に取り組んだ区内団体、個人、事業所に対する表彰があり、防火管理の徹底と自衛消防体制の強化に努めたとして、本学も表彰されました。

今後、担当課として学内の防火・防災に関する教職員の意識を高め、安心・安全な環境作りを目指して努力したいと思います。（施設課長）



## 教育後援会からのお知らせ

4年次生を対象に、医療者のためのくすりの本「治療薬マニュアル」を4月に寄贈しました。学生の皆さんには「病院・薬局へ行く前に」の授業に早速活用することができ、大変喜ばれています。

また、南校舎食堂横に、ウォータークーラーを寄贈しました。暑くなる季節です。水分補給のため、みなさん大いに利用してください。

## ク ラ ブ だ よ り

## 管弦楽部

私たち管弦楽部は11月に行われる定期演奏会に向けて、日々の練習に励んでいます。

今年度の活動実績と今後の予定  
4/3 入学式での演奏、  
新入生歓迎コンサート  
8/11～8/17 夏合宿（北志賀にて）  
11/1～11/3 京薬祭での演奏  
11/28 第37回定期演奏会  
長岡京記念文化会館大ホール  
曲目：カリンニコフ  
交響曲第1番  
グノー  
歌劇「ファウスト」  
ロッシーニ  
歌劇「セビリヤの理髪師」序曲

そのほかアンサンブル大会などクラブ内の行事を企画したりと、楽しく充実した活動をしています。

管弦楽部についての詳細はこちらのホームページからどうぞ

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kpuorche/dex.html>

## 人 事

## 任命

研究科長	教授	竹内 孝治
教務部長	教授	後藤 直正
学生部長	教授	濱崎 博
進路支援部長	教授	山本 昌
図書館長	教授	中田 徹男
共同利用機器センター長	教授	吉川 雅之
薬用植物園長	教授	吉川 雅之
臨床薬学教育研究センター長	教授	高山 明

（以上 任期 2009. 5. 1～2011. 4. 30）

創薬科学フロンティア研究センター長 教授 木曾 良明  
（任期 2009. 5. 1～2011. 3. 31）

動物研究センター長 教授 安井 裕之  
（任期 2009. 5. 1～2010. 4. 30）

薬学教育研究センター長事務取扱 学 長 西野 武志  
情報処理教育研究センター長事務取扱

学 長 西野 武志  
(以上 任期 2009. 4. 1~2010. 3. 31)

昇任

2009. 4. 1付

生命薬科学系分子生体制御分野

教 授 大和田幸嗣

薬学教育系教育研究総合センター

臨床薬学教育研究センター

教 授 橋詰 勉

薬学教育系教育研究総合センター

学生実習支援センター (学長付兼務)

准教授 大槻 雅子

事務局会計課

主 査 前田 朋宏

事務局教務課

主 査 川勝 章広

事務局進路支援課

主 査 近藤 利彦

事務局企画・広報課

主 査 森 洋介

2009. 7. 1付

基礎科学系一般教育分野

教 授 抱 喜久雄

基礎科学系一般教育分野

教 授 秋澤 雅男

基礎科学系一般教育分野

教 授 鈴木 栄樹

生命薬科学系公衆衛生学分野

教 授 渡辺 徹志

生命薬科学系衛生化学分野

教 授 長澤 一樹

採用

2009. 4. 1付

創薬科学系薬品化学分野

准教授 齋藤 一樹

(契約期間 2009. 4. 1~2009. 9. 30)

医療薬科学系臨床薬学分野

助 手 峯垣 哲也

配置換

2009. 4. 1付

薬学教育系教育研究総合センター

学生実習支援センター (学長付兼務)

准教授 大槻 雅子

(学長付<薬学教育系教育研究総合センター

学生実習支援センター兼務>)

## 名誉教授の称号授与

2009. 4. 1 付

平山 晃久

河野 茂勝

藤本 貞毅

## オープンキャンパス (予告)

2009年度のオープンキャンパスを下記の日程で行いますので、お近くの受験生や高校生にご案内ください。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。また、入試課にお尋ねください。

### 8月のオープンキャンパス

〈日時〉 8月1日 (土) ・ 8月2日 (日)

午前の部 9: 30~12: 45

午後の部 13: 30~16: 45

(両日とも、午前、午後の内容は同じ)

〈主な内容〉

大学紹介・ミニ講義・施設見学・  
体験実習・相談会など

### 11月のオープンキャンパス

〈日時〉 11月3日 (祝・火) 京薬祭開催期間中

10: 00~12: 45

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・  
施設見学・相談会など

## 京薬会だより

### ○ 平成21年度代議員総会

5月23日 (土) に開催する予定であった標記総会は、新型インフルエンザの影響で開催を延期していましたが、7月25日 (土) に行うことになりました。

### ○ 平成21年度卒後教育講座

今年で34年目となる京薬会主催の卒後教育講座では、本年度も昨年度並みの約500名の受講者があり、5月10日 (日) から9月6日 (日) の間の計4日間に12コマの講演を行います。なお、本年度からは各講演内容の著作権保護に取り組んでいます。

### ○ 京薬グッズ

京薬会では、『京薬にはキャンパスグッズがない』という学生や卒業生からの多くの声にこたえるため「京薬グッズ」を作成しました。本年5月から本学の購買部 (ポピー) で頒布して頂いております。現在の取扱品目は、マグカップ、マウスパッド、キャリングケース、ボールペン (4色+シャープペンシル)、ポストイット、クリアホルダー、ラッピングペーパー (赤、白) の7品目です。是非一度手にとってご覧ください。

## 京都薬科大学奨学金制度充実のための寄附のお願い

本学関係者の皆様

本学関係者の皆様には、平素から大学運営に多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本学は、2006年度から薬学部入学者は6年制になり、これに関連して2007年度には、長期の病院・薬局実習に対応するための事前実習施設として、臨床薬学教育研究センターを建設、さらに2008年11月から躬行館の建設に着工し、施設整備のための多額の設備投資を続けております。また、2010年度からは、長期に亘る病院・薬局実習のための多額の実習費支出を余儀なくされます。

このような厳しい経営環境の中にありましても、6年制移行により学費負担の増大する学生の修学を支援するため、本学奨学金制度の充実が急務であると考えております。

つきましては、学生に対する修学支援としての制度充実のため、ご寄附による資金的なご支援をお願いするものでございます。

ご寄附いただきました資金は、奨学金寄附金として受け入れ、奨学金基金に積み立てさせていただきます。なお、ご寄附をいただきました方々は、年度ごとの寄附者名簿を作成し永久保存として保管してまいります。また、寄附者名をKPU<sub>NEWS</sub>にも掲載させていただきます。

何卒、学生たちの修学支援のために、奨学金寄附金へのご協力を賜りたくお願い申し上げます。

なお、卒業生の京薬会会員の皆様には、京薬会誌に寄附募集を掲載してお願いしております。

2008年12月

学校法人 京都薬科大学	京都薬科大学
理事長 田村 正昭	学長 西野 武志

### 【京都薬科大学寄附金募集要項】

#### 1 目的

奨学金制度の充実

#### 2 金額

一口 1万円（一口以上でお願いいたします。）

#### 3 寄附金の使途

給費奨学金

#### 4 担当・お問い合わせ場所

京都薬科大学 庶務課

〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5

TEL：(075) 595-4600（代表）、(075) 595-4608（庶務課直通）

※上記電話番号にご連絡いただきましたら、ご案内および振込用紙を郵送させていただきます。

## 京都薬科大学奨学金寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- \* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- \* 元職員については、教授のみ掲載しております。
- \* 敬称略、ご芳名のみ五十音順に掲載しております。

### 2008年12月に寄附をお寄せいただいた方々

#### 〈卒業生・同期会等〉

五・五会（昭32卒）

洛薬会（昭29卒）

#### 〈教育後援会会員〉

#### 〈企業・団体〉

#### 〈法人役員・評議員・職員〉

石黒 博直（評議員） 西野 武志（学 長）

武田 禮二（理 事） 村澤 悟（局 長）

田村 正昭（理事長）

2009年1月～3月10日に寄附をお寄せいただいた方々

<卒業生・同期会等>

荒石 悦子(昭47卒) 末永 克己(昭19卒) 藤本 國勝(昭39卒)  
井岡 万純(昭49卒) 高越 清昭(昭44卒) 藤本 恒子(昭41卒)  
石黒 道彦(昭19卒) 竹田奈保美(昭56卒) 牧 敬文(昭28卒)  
今村 浩(昭38卒) 谷口 睦子(昭42卒) 松村 郁治(昭36卒)  
今村 薫子(昭38卒) 丹所 稔(昭51卒) 松本 直之(平20卒)  
上田 啓三(昭32卒) 突合 皐月(昭41卒) 松本 望(平10卒)  
扇谷 年昭(昭50卒) 辻 勝蔵(昭34卒) 向林素鶴子(昭40卒)  
大杉 三郎(昭16卒) 戸井 豊子(昭47卒) 本岡美智子(昭37卒)  
川崎 昌義(昭42卒) 富永 勲秀(昭43卒) 京都薬専・薬大  
久保 巖(昭14卒) 中川 知秀(昭31卒) 植研0B・0G会  
久保田光二(昭23卒) 中嶋 澄江(昭50卒) 昭和54年卒業生  
栗尾和佐子(昭58卒) 長屋ちとせ(昭56卒) 有志一同  
厚東 正子(昭41卒) 西野 哲夫(昭23卒) 武田薬品研究所  
小財 勲(昭24卒) 野原 基司(昭53卒) 有志一同  
柴田 公見(昭62卒) 福井美代子(昭31卒) 薬品製造学分野

<法人役員・評議員・職員>

蘆田 康子(理事) 田村 正昭(理事長)  
上西 潤一(教授) 野出 學(副学長)  
北出 達也(教授) 浜崎 博(教授)  
桑形 広司(准教授) 村澤 悟(局長)  
河野 茂勝(教授) 森田 和子(評議員)  
後藤 直正(教授) 渡辺 徹志(准教授)

<元職員>

太田 俊作(元教授)

<教育後援会会員>

岡田 代吉  
屋木 利之

<企業・団体>

匿名希望 2社

2009年3月11日～6月10日に寄附をお寄せいただいた方々

<卒業生・同期会等>

赤川 征一(平01卒) 小西 久子(昭32卒) 藤岡 三夫(昭30卒)  
浅野紗智子(昭41卒) 小林 正明(昭35卒) 藤沢平八郎(昭30卒)  
安宅 弘充(平13卒) 小林 元樹(昭47卒) 藤本 悦子(昭59卒)  
有田 昌純(昭58卒) 佐久間賢治(平09卒) 布施知加子(昭36卒)  
石岡 浩子(昭59卒) 佐々木 務(昭63卒) 堀内 厚生(昭28卒)  
石垣 永吉(昭20卒) 佐野 敬子(昭57卒) 前田 由美(昭43卒)  
石田 善浩(平18卒) 澤口 元(昭28卒) 増田 本彦(昭28卒)  
市川 和子(昭36卒) 澤口 萌子(昭28卒) 増田みち子(昭31卒)  
市川 克己(昭59卒) 嶋田 義彦(昭37卒) 松野 愛子(昭36卒)  
稲垣 美幸(昭45卒) 杉山 隆二(昭23卒) 松本 蒼平(昭22卒)  
井上 佳昭(昭49卒) 平 雅文(昭59卒) 松本 勉(昭46卒)  
猪熊眞由実(昭63卒) 高井 麻里(平18卒) 松本 恒行(昭24卒)  
岩井 隆也(平01卒) 高橋 健人(平20卒) 三森 寿一(昭35卒)  
大賀 弘一(昭37卒) 高宮 靖(昭20卒) 六車 昭美(昭39卒)  
大滝 勝憲(昭56卒) 高柳 佳澄(昭59卒) 村井 一枝(昭32卒)  
大前 壽子(昭54卒) 瀧 美知代(昭62卒) 村尾 重之(昭24卒)  
大脇 弘之(昭53卒) 竹内 宏一(昭40卒) 村山 雅子(昭46卒)  
岡 恒(昭28卒) 辻本千代美(昭63卒) 森 一二美(昭52卒)  
岡田みどり(昭49卒) 寺坂哲太郎(昭41卒) 安田 和夫(昭32卒)  
奥林 活人(平14卒) 戸井 一郎(昭46卒) 安松 幹夫(昭33卒)  
香川 春樹(昭57卒) 富山 剛(平14卒) 矢野 好隆(昭39卒)  
笠島 俊男(昭28卒) 中川 幸雄(昭33卒) 山口 博行(昭42卒)  
鎌倉 嘉男(昭36卒) 永友 敏郎(昭27卒) 山下 繁克(昭41卒)  
川島 弓枝(昭62卒) 永浜 淳子(昭31卒) 山下三千子(昭41卒)  
河原 曜子(昭52卒) 中村 悦子(昭37卒) 山本加寿子(昭46卒)  
岸田 幸子(平08卒) 中村 泰三(昭41卒) 湯浅 総司(昭32卒)  
北 泰行(昭42卒) 七海 朗(昭41卒) 横田 好子(昭39卒)  
北山 進三(昭48卒) 七海 禮子(昭41卒) 吉澤 房子(昭49卒)  
木村 恵一(昭34卒) 沼波 康恵(平16卒) 吉田 和子(昭44卒)  
金生 貞治(昭29卒) 能口 敬子(昭50卒) 吉村 聡子(昭56卒)  
國貞 真司(昭41卒) 林 卓志(平20卒) 渡邊 萬里(昭48卒)  
倉本 昌明(昭28卒) 平野 隆(昭55卒) 匿名希望 1名  
小泉 健(昭36卒) 広瀬 泰久(昭20卒)

<法人役員・評議員・職員>

秋葉 聡(教授) 土屋 勝(理事)  
石川 誠司(助教) 土岐 隆信(評議員)  
伊槻 雅子(評議員) 長澤 一樹(准教授)  
乾 賢一(理事) 中田 徹男(教授)  
入江 一充(監事) 西口 工司(教授)  
大槻 雅子(准教授) 能勢 俊彦(課長)  
抱 喜久雄(准教授) 野出 學(副学長)  
北村 佳久(准教授) 藤原 洋一(講師)  
桑原 敏則(課長) 星野 展宏(主査)  
小里 芳頭(課長) 増田 重治(課長)  
児玉 孝(評議員) 皆川 周(助教)  
後藤 勝実(講師) 宮秋 昭(理事)  
佐原 和美(主査) 宮本 茂敏(理事)  
高野 江里(課長) 宮本 孝(課長)  
高山 明(教授) 村山猪一郎(監事)  
竹内 孝治(教授) 安井 裕之(教授)  
武上 茂彦(講師) 山下 豊彦(課長)  
武田 禮二(理事) 吉村 律子(主事)  
田村 正昭(理事長) 京都薬科大学  
月岡 淳子(助教) 教授親睦会

<元職員>

井上 武久(元教授) 藤本 貞毅(元教授)  
金澤 治男(元教授) 村西 昌三(元教授)  
福井 昭三(元教授)

<企業・団体>

株式会社 茨木春草園  
キノビクス株式会社  
株式会社 京都ラボ  
匿名希望 2社

(2009年6月10日現在)